**1. 緒言**

ゼミ名称（例：「第1回研究室ゼミ」・「卒業研究中間発表会」など） 　　　 　　　日付

**発表題目**

班名　　学年　　氏名

本文

―――――――――――――――――――――――――

①本文の章立ては，「**1. 緒言**」，｢**2. 実験方法**」，「**3. 結果および考察**」，「**4. 結言**」，「**今後の展開**」，「**引用文献**」の順とし，章番号と下線をそれぞれに付すこと．ただし，「**今後の展開**」と「**引用文献**」については，番号と下線を付さないこと．「**今後の展開**」については，本文の分量やレイアウト次第で省略してもよい．「**引用文献**」については，筆者名，論文名（書籍名），巻号，引用頁，発表年をそれぞれ記載すること．

[記載例]

1) J.W. Mullin, Crystallization, 4th Edition, Butterworth-Heinemann Ltd, pp.320-326 (2001)

2) T. Mikami *et al*., Quality-Controlled Reactive Crystallization of SrSO4 To Produce High-Valued Chemicals, Chemical Engineering & Technology, **33**(5), 775-779 (2010)

≪注1≫「pp.」は，「page」の複数形「pages」の略号．

ただし，成書を引用する際に用い，雑誌論文を引用する際には用いない．

≪注2≫「*et al*.（『エト・オール』と読む）」は，「（ここでは書かないが）その他にも著者がいますよ」の意．

≪注3≫論文の巻名「**33**」は太文字とし，号名「5」は括弧内に記載する．

―――――――――――――――――――――――――

②使用のフォントは，以下の通りとする．

ア）発表題目：「MS明朝」の「太字」の「12 pt」とする．

イ）章見出し（「**1. 緒言**」など）：数字箇所は「Times New Roman」の「太字」の「10.5 pt」，日本語箇所は「MS明朝」の「太字」の「10.5 pt」とする．

ウ）本文：日本語フォントは「MS明朝」の「10.5 pt」，英数字フォントは「Times New Roman」の「10.5 pt」とする（※「pt」は，「ポイント」と読み，字の大きさを表す）．

―――――――――――――――――――――――――

③本文の句点はピリオド「．」，読点はコンマ「，」を用いること．次の手順で，設定できる：「言語バー」の「ツール」→「プロパティ」→「全般」→「入力設定」の欄の「句読点」．

―――――――――――――――――――――――――

④Figure（図）とTable（表）を記載する場合は，番号とタイトルをそれぞれに付すこと．Figureのタイトルは，図本体の下部に，Tableのタイトルは表本体の上部にそれぞれ記載すること．

―――――――――――――――――――――――――

⑤図表は本文の最後にまとめて記載するか，あるいは本文中の右上部にまとめて記載すること（過去のレジュメ作成例を参考にすること）．

―――――――――――――――――――――――――

⑥数式を記載する場合は，「**Eq. (8)**」のように数式番号を付し，続けて本文中に数式記号の説明と単位を記載すること．

［記載例］

界面張力に関するMersmannの式を以下に示す．

 **Eq. (8)**

ただし，*γ*は界面張力[mJ･m-2]，*k*は ボルツマン定数[J･K-1]，Tは絶対温度[K]，*ρc*は結晶密度[kg･m-3]，*NA* はアボガドロ数[#･kmol-1]，*M*は分子量[kg･kmol-1]，*cS*は結晶中の溶質モル濃度[kmol･m-3]，*cL* は溶液中の溶質モル濃度[kmol･m-3]

―――――――――――――――――――――――――

⑦使用単位は，SIを原則とする．記号や用語の直後には括弧内に単位を記載するが，数値の直後には括弧を付さないこと．

［記載例］

*k* [W･m-1･K-1]　　 ←　 記号の直後は，要括弧．

*k* = 0.58 W･m-1･K-1　 ← 数値の直後は，括弧不要．

―――――――――――――――――――――――――

以上